Good Old Life

Authentic House

築50年の町工場付き家屋を再生。日本の風土になじむ古きよき家。

どかで穏やかな空気が流れる神奈川県川崎市の住宅街。妻の祖母が暮らしていた町工場兼自宅を、矢田大輔さんは一昨年リノベーションした。

「築50年ほどの昭和らしい和風の家でしたが、これから数十年たって古くなっても、モダンでかっこいい家にしたいと思いました」

リノベーションは昔からの知人『MOBLEY WORKS』の鰤岡力也さんに相談。国産杉の外壁に包まれた家は、ご夫妻が好むアメリカのオーセンティックなデザインと素材感で統一されている。

「リビングは無垢の床材を斜めに張り、奥行きを感じさせるようにしています。ダイニングは寄せ木張りにして、雰囲気を変えました」

モスグリーンのキッチンは、矢田さんが営む眼鏡店『Local』の内装にもリンクする。

「収納の取っ手や扉の鍵など、すべて鰤岡さんが雰囲気に合わせて探した輸入品を使っています」

リビングとダイニングの間に階段を設けたのには理由がある。

「子供が成長しても帰宅時には必ずここを通り、家族と顔を合わせてから部屋に入ってほしいんです」

2階まで風が吹き抜けるオープンな階段を通して、家中の気配が伝わる。子供たちはここに腰かけて本を読んだり、ダイニングからフラットにつながるテラスへ素足のまま出て遊んだり。

「ステイホーム中にトマトやキュウリを育て始め、収穫を楽しんでいます。日本の風土に合うよう通気性を考えた家なので、あまりエアコンをつけないし、冬もストーブ一台で家中暖かい。リノベーションをしてから健康になったし、家族みんな、自然を感じながらのびのびと暮らせるようになりました」

1

2

経年変化で味を出すこだわりのパーツ

1.階段の手すりは施工業者のすわ製作所にオーダー。滑りにくいようアイアンに蝋を吹き付けた。やがて酸化して手になじむ。2.洗面室にはクラシカルなシンクをセレクト。蛇口も使い込むうちに味を出す。

オープンな階段は家族の集いの場にも

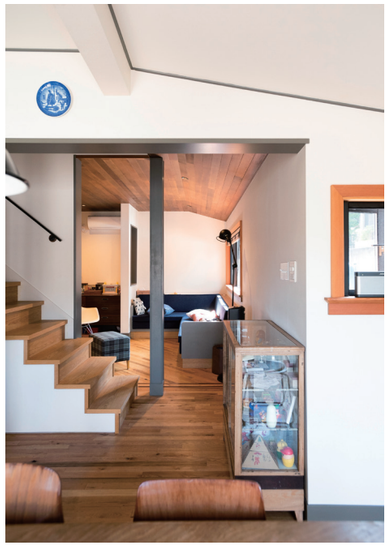
なだらかに設定され、腰かけるのにちょうどいい階段は、ひとつながりのLDKの緩やかな仕切りにもなっている。風通しを考えてルーバー状にした衝立の脇には、リノベーションにあたって残した柱が立ち、家族の成長を見守っている。

テラスに面した明るいダイニング

リビングと雰囲気を変えて、市松模様の寄せ木張りの床に。MOBLEY WORKSにオーダーしたテーブルは、6〜7人で囲めるサイズをリクエスト。手前のガラスのキャビネットには、子供たちのファーストシューズや、生まれた時間で止めた時計など、大切な思い出を飾っている。

緩やかに変化をつけた抜けのよいLDK

壊せなかった柱はグレーで塗装。ダイニングの入り口に、天井からの垂れ壁を設けることで、抜けは確保しつつ空間に変化をつけた。床にはDIYでオイル塗装をし、無垢の自然素材が経年変化していく味わいを楽しんでいる。



絶妙なトーンのモスグリーンが映える

シンプルなインテリアの中でアクセントになっているモスグリーンのキッチン。妻の身長に合わせた高さに設定するなど、使い勝手を考え、取っ手などのパーツにもこだわってオーダー。壁は白いサブウェイタイルにグレーの目地を詰めた。

テラスをダイニングの一部として楽しむ

ウッドデッキのテラスでは、朝食を取ったり、バーベキューをしたり、イスを出して読書したり。“流し素麺”をすることも。一部に土を入れて庭を設け、野菜の栽培を楽しんでいる。家の外壁には多摩杉を使用。内部はすのこ状に張り巡らされた、通気性を考えた構造が特徴。